

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する
検討小委員会（第24期・第4回）議事録

1. 日時 平成30年11月29日（木）15:00～17:00
2. 会場 日本学術会議6階 6-C(1)会議室
3. 出席委員 朝比奈潔 岸田伸幸 高木和広 藤原修三 古崎新太郎
松岡猛 水野光一 山内博 横田真 （50音順）

4. 議事要旨

藤原委員長は定刻になったところで定足数を確認し、開会を宣した。

1) 前回議事録の確認（資料1）

第3回議事録（資料1）が学術会議事務局に提出されたことが報告された。

2) 今期報告書の査読状況について（資料2）

9月13日の親分科会で了承された報告書案の事務局段階の原稿チェックが完了したこと、水野委員修正原稿について親分科会査読段階で反映させること、そして、「提言等のチェックシート」（資料2）原案を作成したことが、岸田幹事より説明され、異議無く了承された。

松岡委員より、9月の親分科会への付議により正式な承認がとれているのか要確認との指摘があった。事務局により、事務局チェック完了版を査読修正の上、親分科会のメール審議による修正を経て親委員会に上程する手続きが確認され、横田副委員長および岸田幹事を軸に所要の対応を進めることが承認された。

3) 今後の今期の活動方針について（資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5）

横田副委員長より「老朽化学兵器処理関連情報のアーカイブに関する相談状況」（資料3-1）「渡辺副会長説明用資料」（資料3-2）を用いて、吉川弘之日本学術会議元会長の助言を得て渡辺美代子現副会長に同構想を説明し、渡辺副会長から国立国会図書館のアーカイブ基盤や国立情報研究所の知見を活用してはどうかとの示唆を受けたことが伝えられた。

古崎委員・松岡委員）関連資料の収集と選別の実務はどのようにするか検討すべきである。

松岡委員）次回の親分科会で本アーカイブの件を提起したら良い。

古崎委員）単に資料を集めれば良いというものではない。使い易く管理する必要がある。

山内委員）間もなく上梓予定のアジアでのヒ素中毒に関する専門書の編者として、Springer社のweb編集プラットフォームを使っているが、良く出来ている。国立情報研には、そうしたツールレベルの話を持ち込み、プラットフォーム技術の現状を講義して貰えると有り難い。但し、本格的なアーカイブ構築は専門要員を雇用しなければ出来ない作業だろう。

古崎委員) 今後の活動方針については、老朽・遺棄化学兵器処理に関する記録や情報のアーカイブ構想の推進に加え、処理が本格化するハルバ嶺関係の懸念事項に対応するため、内閣府担当室と情報や意見の交換を密にすることを提案する(資料 3-3)。

山内委員) この議論を進めるのに、担当室側のオブザーバーがいると有益である。

横田副委員長) 担当室に出席依頼をしてみる。

古崎委員) ヒ素廃棄物受け入れについては、現地(ドイツ)で議論が出て来ており、順調とはいえない。

朝比奈委員) ドイツでは地元住民/地方政治家レベルで拒否感が出ており、受け入れ会社は別の廃坑での処理に変更する可能性を考慮している。本小委員会の今後の検討項目としては老朽化学兵器処理体制の構築が重要と考えている。中でも、今後国内で発見される化学兵器への対応を目的とした海上可動式プラントが有望と考える。これは、海洋を含む non-stockpile 処理への関心が高まっている世界の趨勢に合致し、日本の国際的貢献に資すると思う(資料 3-4)。

岸田幹事) 今後の活動の検討項目としては、ポスト・ハルバ嶺体制へリスクマネジメントを継承する仕組みを作ることが重要だと考える。また、イノベーション起点で技術探索する MOT オフィス機能を担うことも有益と思う(資料 3-5)。

山内委員) 資料アーカイブを構築して、どう活動するかを考えてゆきたい。「ヒ素は怖くないよ」という社会認識を形成する方向に持ってゆきたい。

4) その他(資料 4-1、4-2)

朝比奈委員より化学兵器処理に係る最近のトピックスとして、北朝鮮が保有していると想定されている化学兵器の処理を巡る議論、イラク戦争で判明したサダム・フセイン軍の化学兵器事情、および、従来よりもテロに対し安全な方法で工業原料としてホスゲンを生産する BOSS 法の技術革新について紹介があった(資料 4-1)。

岸田幹事より委員会のメール審議の活用方法について紹介があった(資料 4-2)。

次回会合では、化学兵器処理事業関連アーカイブのプラットフォームに関する専門家の説明を企画し、担当室関係者の同席も交渉することとなった。また、次回会合日程は、2月中を目途に調整することとなった。

閉会時間となったので、藤原議長は閉会を宣した。

以上